



森元 清蔵 議員
(清流会・かさいを育む会)

大型建設事業と 10 年間の財政見通しについて



問 大型事業予算は、今後 10 年間（令和 3 年～ 12 年度）の財政収支見通しの投資的経費にいかんに入されているのか。

答 庁舎附属棟建設は、総事業費 24 億円のうち一般財源は 5 億 2,000 万円です。令和 7 年度に 9,000 万円、8 年度に 4 億 3,000 万円を算入しています。

小中学校の再編整備は、総事業費約 100 億円のうち一般財源は 18 億 4,000 万円です。令和 6 年度に 5,000 万円、7 年度に 3 億円、8 年度に 6 億円（学校教育施設整

備基金繰入）、9 年度に 8 億 1,000 万円（学校教育施設整備基金繰入）、10 年度に 2,000 万円、11 年度に 6,000 万円を算入しています。

次に、総合運動公園は、総事業費約 94 億円のうち一般財源は 14 億 3,000 万円です。令和 8 年度に 1,000 万円、9 年度にも 1,000 万円、10 年度に 1 億 3,000 万円、11 年度に 1 億 8,000 万円、12 年度に 5 億 5,000 万円（文化スポーツ振興基金繰入）を算入しています。残りの 5 億 5,000 万円は、令和 13 年度になります。

ごみ焼却施設解体は、総事業費 6 億 8,000 万円のうち一般財源は 7,000 万円です。令和 8 年度に 5,000 万円、9 年度に 2,000 万円を算入しています。これらの建設事業に係る起債の償還費は、公債費に算入しています。

新病院整備は、建設事業費の起債償還費の 2 分の 1 を病院事業繰

出金 7 億 5,000 万円の中に盛り込んでいます。起債の本格的な償還は令和 13 年度以降になります。

新ごみ処理施設建設のための基金は収支見通しには入っていませんが、令和 5 年度より毎年 1 億円、10 年間で 10 億円を積み立て、令和 13 年度以降で費用が発生する際に充当します。

問 安定財政に向けての基本的な考えと数値目標は。

答 毎年度の収支が安定し、財政調整基金を取り崩さないことが 1 番の目標です。実質公債費比率は 18%未満にし、財政調整基金は 35 億円は確保していきたいと考えます。

意見 財政的に安定しているから施設を造るのではなく、市民合意を得て造っていくべきだ。



大前 裕也 議員
(改革未来・自民の風)
(加西市民の会)

脱炭素先行地域づくり事業について



問 脱炭素先行地域づくりについて伺う。地域エネルギー会社による事業の進捗と、3 月議会において、加西市における地球温暖化対策の積極的な取組について、質問をした。その取組の主要事業である地域エネルギー会社、加西スマートエナジーによる脱炭素先行地域づくりの現在の進捗状況について伺います。

答 加西市では市内の脱炭素化を目的に、脱炭素先行地域

づくり事業への取組を行政と連携して事業を実施する地域エネルギー会社として、加西スマートエナジーを昨年 12 月に設立しました。現在、加西スマートエナジーは加西市の遊休地である衛生センターグラウンドに 750 キロワットの太陽光パネルを設置する工事に着手しており、今年度秋にはその電力を市公共施設に供給する予定です。また、今年度は九会地区と市役所周辺地区の 2 か所でマイクログリッドを整備する設計を実施しています。マイクログリッドの設計内容については、太陽光パネル・蓄電池の容量、現場調査、電力利用のデータ分析を行っているところです。

なお、今年度の事業として、市内 2 か所のため池に太陽光パネルを設置する計画で、現在、ため池

の測量、自然環境調査、関西送配電との接続協議を実施しており、工事完了は今年度末を予定しています。加西市では、エネルギーの地産地消が実現された「脱炭素のまち加西」を掲げ、2030 年度の市内の温室効果ガス排出量を 2013 年度比で 53%削減することを目指しています。

この脱炭素先行地域づくりの事業を契機に、加西市は加西スマートエナジーと連携して、CO2 排出量削減目標達成と、脱炭素社会の実現に向けた取組を推進していきます。

要望 これからますます加西スマートエナジーの脱炭素先行地域づくりが進んでいくと思いますので、引き続き取組をお願いしたい。